

# 光輪

第137号  
〒950-2022 新潟市西区小針4丁目5番18号  
真宗仏光寺派 瑞林寺 光輪会  
電話 (025) 266-1846・FAX (025) 266-1907  
瑞林寺ホームページ http://www.zuirinji.com

● 月参りは12月29日(木)まで 令和5年度 月参りは1月6日(金)より



境内の寒椿

12月31日  
**除夜の鐘**  
大晦日午後11時30分より  
鳴鐘開始

令和5年 1月1日(元旦) 11時より  
しゅ しょう え  
**修正会法要** お屠蘇は休みます  
令和5年 1月29日(日) 13時半より  
**初お講** 「しんらんさまの日」です

「除夜の鐘」では、番号入りの鳴鐘記念カードを配布しております。



曹洞宗 昌興寺住職 石田哲彌師

## 瑞林寺の由来と歩み ― 栃尾編 ―

### 瑞麟寺の消長 2

伝説では瑞麟寺廃寺の前年、慶長2年(1597)2月に智了法師、小針の地に瑞麟寺を開基するとあります。そして開基の智了法師は慶長5年(1600)に亡くなられます。  
智了法師は実乃、門徒僧、宗親と同様、すでに老年であったことを示しています。  
まるでバズルがとけていくかのよう年代や出来事がみごとに当てはまっています。  
上杉謙信の「義」の心の寺、瑞麟寺が、小針の瑞林寺となって、新たな歴史を展開していく、この不思議な因縁にただただ驚くばかりです。  
始めに、栃尾高校で華織さんに

### 瑞林寺開基 実乃の子孫の 意外なる展開

#### はじめに

瑞麟寺は上杉謙信に始まり本庄新左衛門尉実乃、本庄清七郎秀綱そして妙徳院と戦国時代から江戸時代初期にかけて数奇で、華麗な歴史を演じました。一方、瑞林寺は困難な浦原の開墾に身を投じ、ともに労苦を分かち合って見事な水田社会を築きあげ、今日を迎えました。新潟の歴史の根源でもあり、赤く細い糸で結ばれた大きなドラマがここに繰り広げられたのです。  
労苦を分かち合って今日を迎えた浦原開墾の歴史については、すでに老院のごとく細かくお話されていますので、前半の栃尾を中心と

出会いは生まれたこの因縁。いわば華の糸が織り込まれ、赤く細い糸が何本もつぎと現れ、然らるれ、そして縦横に織り成されていく。すでに最初から、こうした展開を天は予想していたのでしょうか。

### 妙徳院の数奇な生涯

長岡市栃尾の市街地の西方に、天高く城形のシルエットを描いているのが、檜吉城中核、栃尾城です。この城の麓、大野の城館で天正元年(1573)に生まれたのが主人公の妙徳院です。弟は茂右衛門。父は栃尾城主、本庄清七郎秀綱。勇猛もって知られた武將でした。祖父は上杉謙信の育ての親として有名な本庄新左衛門尉実乃です。  
天正8年(1580) 御館の乱によって栃尾城は落城、二人の子供は側近に護られ、辛うじて落ち延びることができました。姉の妙徳院は7歳。郡司不入という特権をもった乙吉の龍隠院に匿われ、そして弟の茂右衛門は何処へもなく落ち延びたのであります。後に弟の草間茂右衛門は郷里の長岡に帰り、時の藩主、堀直寄にその才能を見いだされ、長岡町の検断職につき、草間家は幕末まで検断職を維持しました。  
検断職：警察・刑事裁判の職

### 淤泥華

十月一日、坂井輪仏教会寺コン観念寺様で開催。男性七名女性七名参加で二組のカップルが成立。  
十月六・七日、寺子屋習字教室は昇段試験のため二日間みっちりお稽古。  
十月十六日、報恩講の準備として世話方の皆さんの佛具磨き、光輪「報恩講案内」発送  
十月二十三日、しんらんさまの日  
十一月四日、自坊報恩講ではじめてのライブ配信の試み。  
十二月四日、女性の会開催催職法話・ヨガ・薬膳 常連定着と新たな参加者に感謝。  
十二月二十日、海岸沿いの大雪で交通がマヒ。  
十二月二十五日、しんらんさまの日の後、世話方の皆さんに年始の配り物お願い。  
十二月三十一日、歳暮法要、除夜の鐘一年があつという間です。

5月ご本山「京都の旅」へのご参加、お待ちしております。



祖父江佳乃使

## 報恩講 報告

報恩講の準備に世話方のみならず、まに仏具磨きとお寺中の掃除をしてもあります。瑞林寺の大掃除は年末ではなく、報恩講の準備に併せて世話方のみならず、やってもあります。庭の掃除から窓ふき、本堂裏戸のぞうきんがけなど心をこめてお手伝いください。本堂にありがたいことです。  
今年のお説教は、吉峰教範布教使と新たに祖父江佳乃布教使にお願い致しました。祖父江さんのお父様が老院の大谷大学の時の後輩で、亡くなる前に聞かされ、それを縁にこの度、お説教をお願い致しました。その様子は瑞林寺ホームページを御覧ください。

## 報恩講志御礼

敬称略・順不同

二万円	伊藤徳雄	(備) 福富
一万円	樋口賢作	(備) 後藤経義
樋口静司	梨本正義	
樋口平蔵	樋口仁左衛門	
樋口厚	水落義樹	
石渡勝春	前田五助	
樋口半七	岩原三男	
仲田厚	磯部基樹	
窪田満	中澤幸子	
窪田勝治	渡辺武彦	
伊藤英昭	佐山康昭	
渡辺浩成	石井秀志	
巖谷寺	山下俊栄	
(備) 公益社	増田純夫	
渡辺石村(備)	笠原フサ	
(備) 相沢企業	細川功一	
にむらや菓子舗	中由不二也	
(備) 大澤材木	樋口トキイ	
六千円	中澤角左衛門	
廣川芳雄・美江子	本間賢吉	
五千円	石塚明憲	
笠井仏壇工芸	新野健三	
	五十嵐海	
	佐藤友厚	
	小山辰悦	
	樋口健二	
	前田隆夫	
	高松哲也	
	石井キミ子	
	渡辺道子	
	仲田修	
	片野卓	
	鈴木啓宏	
	松尾昌重	
	梅田輝子	
	樋口睦子	
	渡部久兵衛	
	羽下光盛	
	小山高司	
	松平豊子	
	藤野妙子	
	田中寛	
	吉村智之	
	大橋美恵子	
	内山信一	
	下川照雄	
	吉田昭一	
	佐藤均	
	内山富男	
	小林貞夫	
	山崎早苗	
	甘利敏子	
	遠藤波秀子	
	高橋ヨイ子	
	樋口隆	
	吉田大輔	
	伊藤代志子	
	前田芳幸	
	高津スミノ	
	田中修一	
	花野雅文	
	佐藤秀子	
	渡部惣四郎	
	渡辺莊松	
	梨本由美子	
	前田公治	
	長谷川昭三	
	渡部徳七	
	池田寛雄	
	齊藤仁	
	平フミ	
	高橋美美子	
	岩倉佑子	
	田宮篤	
	内山則子	
	百川智	
	渡部信子	
	佐野功夫	
	志田光雄	
	三浦武雄	
	田中ヨシ子	
	堀弘	
	横野トミ	
	赤原権平	
	小林イエ子	
	小山イ子	
	渡邊隆夫	
	碓氷二	
	皆川夕紀子	
	渡部晃久	
	樋口佐次平	
	高岡久子	
	酒井弥一郎	
	中澤健介	
	石渡康子	
	木村昌子	
	渡部末松	
	梨本直孝	
	磯部幸子	
	渡部豊	
	樋口ハルイ	
	立山美智子	
	鈴木明	
	水野満洲雄	
	岩倉佑子	
	田宮篤	
	内山則子	
	百川智	
	村山努	
	小出実	
	森本正勝	
	小林秀夫	
	小林豊	
	丸山哲司	
	小山伸之	
	渡邊隆夫	
	碓氷二	
	村上芳枝	
	樋口政直	
	五十嵐春司	
	菅原泰子	
	村上なぎさ	
	横川薫	
	福田一政	
	仲田謙二	
	梨本高幸	
	市川利夫	
	源川	
	お仏供米	
	懇志	
	ありがとう	
	ありがとうございました	
	(ご報告ください)	

ホームページに報恩講の高座説教が動画として掲載されています。

## 新年法話

住職 廣澤晃隆

「コロナ禍」という言葉をよく使いますが、「禍」とは「わざわい」という意味です。コロナは「禍い」なのでしょいか。吉凶禍福という言葉がありますが、これも「善い」と悪い事、もしくは「めでたい」と縁起の悪い事」と対比して使われます。人間生きていけば何が起るか分かりません。  
親鸞聖人は  
かなしきかなや道俗の  
良時吉日えらばしめ  
天神地祇をあがめつ  
卜占祭祀つとめとす

と御和讃にうたつておられます。「良時吉日」とは今日が良い日か悪い日か、吉日か凶の日かと、日の巡りや占いによって左右される私たちが人間を、親鸞聖人は悲しまれました。日が悪ければお祝いし、凶が出れば祈ってらう。不安につけこむのが怖し(まやかし)の宗教です。日の善し悪しを選ばぬのが浄土真宗です。

AM 7:00 ~ 8:30 ヨガと読経・法話  
AM 8:30 ~ 10:00 五季薬膳料理お食事会

次回 2月5日(日) 参加費 5,500円

朝7時 瑞林寺本堂集合 (読経&ヨガ・法話・薬膳弁当とお話)

来年度 2023年 全日程 日曜日 朝7時~

2/5 4/2 6/4 9/3 12/10

コロナは禍いではありません。生きる意味を問う直し、生きる事に目覚めさせてくれる転機を与えている。新年を迎えるに当たり、あらためて真実の拠り処、浄土真宗に教を聞いてまいりましょう。

## 今月の掲示板

11月  
失って人ほぼぼと  
過ぎゆく

12月  
生存の証し  
不安は

生きていくことは、不安の連続です。不安がない世界にいったとして心配ないかという、また不安に落ちるのではないかという不安に襲われます。不安を取り除くのは怪しい宗教、不安に立てる教え、それが仏教です。

## 新米 坊さん日記

理想未来のために、今を生きて。そして、今の私をかたち作っているのは過去である。当たり前にもなっているこの時間の流れ。過去↓現在↓未来、時計が示す針はそれを証明するかのこころを刻んでいます。  
この定義の中で余命宣告などされれば、未来は絶たれ、今を生きての活力は失せ、過去をさかのぼり、ただ今ある自分に後悔さかのぼり、たぶん、このように究極の宣告で無にせよ、どのようにしたら私は今をありがたく一杯生きていることができるのでしょうか。  
私も含め、全てのひとは皆、明日の保障など無い中で生きています。十分理屈は存じしていますが、普段の生活ではその時計が邪魔をします。  
そこで未来を描き、今を生きているのではなく、未来より私を導いていただく、「お導き、なすさま」の時間が逆さまになれば、順境も逆境も力になる力の導きと定まることにより、何があるとも一杯一杯、今を生きていることが常となる。そんなヒントが書物にありました。(山崎)

12月の大雪で、参道の雪吊りも折れてしまいました。